

# コモンズ30+しずぎんファンド

追加型投信 / 内外 / 株式



## 基準価額の推移

2014年12月29日 ~ 2020年7月31日



※「分配金込基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています。※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.265%（消費税込）です。



## 運用実績

2020年7月31日時点

### 基準価額

12,252 円

(前月末比)

△313 円 (△2.49%)

### 純資産総額

7.7 億円

(前月末比)

△0.1 億円 (△1.16%)

### 騰落率(分配金込)

期間	騰落率
1ヵ月	△2.49%
3ヵ月	5.12%
6ヵ月	△5.29%
1年	2.76%
3年	1.93%
5年	9.97%
10年	-
設定来	22.52%

### 分配金 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2015年12月	0円
2016年12月	0円
2017年12月	0円
2018年12月	0円
2019年12月	0円
設定来合計	0円

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配後です。※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※分配実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



## ポートフォリオの構成比

種別	比率
コモンズ30ファンドマザー	90.2
静岡銀行株式	7.5
現金等・その他	2.3
構成銘柄数	31社

※2020年7月31日時点



## ポートフォリオの状況

### 業種別比率

機械	21.0%
化学	20.2%
電気機器	13.8%
サービス業	10.0%
輸送用機器	6.7%
卸売業	4.5%
陸運業	3.7%
医薬品	3.7%
食料品	3.7%
金属製品	3.7%
小売業	3.1%
建設業	2.9%
繊維製品	1.2%
その他	1.9%

### 未来コンセプト別比率

精密テクノロジー	14.7%
ウェルネス	14.7%
新素材	13.9%
生活ソリューション	13.6%
快適空間	10.8%
資源・エネルギー	7.4%
ライフサイクル	7.1%
未来移動体	6.7%
地球開発	6.2%
社会インフラ	3.1%
その他	1.9%

## 組入上位10銘柄

銘柄	未来コンセプト	銘柄概要	組入比率
1 ユニ・チャーム	ライフサイクル	世界企業と切磋琢磨し、空白地帯で成長	3.9%
2 SMC	精密テクノロジー	工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップ	3.9%
3 ディスコ	精密テクノロジー	kiru、kezuru、migaku、世界を代表する精密加工装置メーカー	3.8%
4 東京エレクトロン	精密テクノロジー	創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社	3.8%
5 カカクコム	生活ソリューション	インターネットユーザーに「便利」を届け続ける	3.8%
6 ヤマトHD	生活ソリューション	「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ	3.7%
7 シスメックス	ウェルネス	起源は音響機器、今は血球計数分野で世界No.1、成長するグローバルニッチのリーダー	3.7%
8 クボタ	地球開発	日本で培った競争力で、アジアの食糧問題に寄与	3.7%
9 エーザイ	ウェルネス	患者家族まで心を配る徹底したステーキホルダー経営	3.7%
10 ダイキン工業	快適空間	世界一快適な空気をつくる	3.7%

※2020年7月31日時点

※「ポートフォリオ別構成比」「未来コンセプト別比率」「組入上位銘柄」に関しては、マザーファンドについての記載になります。  
※各比率はマザーファンドの純資産総額を100%として計算しております。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。  
※その他とは現金等を指します。

◎「未来コンセプト」とは、当ファンドが行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」



## 運用状況

### ◎運用レビュー

7月のファンドの月間リターンは▲2.49%の下落となりました。

### ◎運用責任者メッセージ (コモンズ30マザーファンドについての記載となります)

7月の内外株式市場は、4～6月期の決算発表でテクノロジー企業の好決算を確認したことで世界的にハイテク株物色の流れが強まり、特に米国ナスダック指数は史上最高値を更新しました。また、米中対立が激化し新たな局面入りも懸念されましたが、中国上海株価指数は当月10%を超える上昇となり約2年半ぶりの高値を更新しました。国内株式市場は、円高懸念なども再燃し日経平均株価で22,000円台でのレンジ相場（一定の幅で動くこと）となり、月末にかけて小幅下落しました。投資先30銘柄中7銘柄が値上がり、23銘柄が値下がりとなりました。同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）は▲4.02%の下落、日経平均株価は▲2.59%の下落でした。

当ファンドは月末にかけての下落局面で丁寧な買い増しを続けたことで、株式の組入比率は98.1%まで上昇しています。個別銘柄ではヤマトHD+15.67%、東京エレクトロン+8.93%、ユニ・チャーム+7.65%など5銘柄が5%を超える上昇となりパフォーマンスに貢献しました。4～6月期の決算発表は、緊急事態宣言下での業績を確認することが出来ています。同じ業界の中でも、外部環境の変化や危機時に強い企業がはっきりしてきています。まさに、当ファンドの30年目線での企業評価の重要なポイントになります。こうした定点観測をしっかり続けて参ります。引き続き、当ファンドにご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

## 投資委員会メンバー

○伊井哲朗、渋澤健、上野武昭、末山仁、原嶋亮介/○は最高運用責任者

組入比率と組入銘柄については、マザーファンドについての記載となります。



## 新規組入投資先

なし



## 今月のピック！

### ◎ (4911) 資生堂

7月は資生堂の株価が14.41%と大きく下落しました。リモートワークの普及やEコマースの拡大に伴い、通勤やショッピングといった外出の機会が減ったことによって、化粧品の中でも特にメイクアップの需要は低調な状況が続いていることに加え、近年の成長を牽引してきたインバウンド需要は消失し、国境を跨ぐ人の移動が減ったことでトラベルリテール（免税販売）も大きく減少していることから、同社の業績の先行きに対する悲観的な見方が強まったものと推察します。こうした中、同社の経営陣は、本格的な需要回復までには2~3年を要するとするというワーストシナリオに基づいて抜本的な構造改革を行う意思を示しています。詳細についてはまだ発表されていませんが、店頭だけでなくライブストリーミングなどのECチャネルも活用しながら、どのように顧客接点を確保していくか、が重要なポイントになると考えているので、この点には特に注目していきたいです。

アナリスト 原嶋 亮介

### ◎ (6301) コマツ

7月はコマツの株価が6.2%下落しました。下旬に発表となった決算が低調でネガティブ視されました。営業利益は、2021年3月期の第1四半期が前年同期比64%減と大幅減益、通期の会社計画も前期比54%減と厳しい数字です。建設機械の世界市場は昨年度から減速基調にありましたが、新型コロナウイルスの感染広がりが追い打ちをかけました。同社の建設機械の第1四半期売上高は、中国向けが前年同期比19%増と伸びましたが、それ以外の地域では軒並み減少となっています。ただ、今後の需要回復が期待される動きも出てきています。建設現場の工事再開に伴って、現場での建設機械の稼働率に回復感がみられるからです。コマツのコムトラックス（建設機械の情報を遠隔で確認するためのシステム）から導かれる6月の月平均稼働時間は、北米が前年同期比1%減と5月までの同2ケタ減少ペースから減少幅が縮小、中国は同2%増と3カ月連続で増加、欧州も同4%増とプラス転換、日本も同3%増とプラスに転じました。

シニア・アナリスト 上野 武昭

### ◎ (2802) 味の素

7月は味の素の株価が6.25%上昇しました。2021年3月期第1四半期決算発表に合わせて通期の業績予想を上方修正したことが好感されました。決算説明会は7月30日に電話会議形式で行われました。第1四半期の売上高は前年同期比▲6.0%、事業利益は同+22.5%と減収増益の決算となりました。増益の要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要などで北米での冷凍食品の販売が好調であったことや、マーケティング活動等の抑制で費用が減少したことなどが寄与しました。期首には▲60億円程度と見込んでいた、第1四半期事業利益に与える新型コロナウイルスの影響が、結果として+40億円程度での着地となり100億円程度計画比で上ブレの要因となりました。一方で、マーケティング費用など販売費の抑制により、5月後半から6月にかけて市場シェアが低下してきているので、今後は販売費を増加してシェアダウンに対抗していくとのことです。

シニア・アナリスト 末山 仁



## 企業との対話

7月2日、投資先企業の味の素社長、西井さまをゲストにお招きし、「SDGs投資」をテーマに同社の取り組みや西井さまが考える「SDGs」についてお伺いする機会に恵まれました。

当日の動画は[こちら](https://youtu.be/MCVovj05Op8)からご覧いただけます。

<https://youtu.be/MCVovj05Op8>

西井さまは2015年に味の素の社長に就任。ちょうどその年に国連でSDGsが採択されました。その前のブラジル社長時代、すでにSDGsの前身であるMDGs（ミレニアム開発目標）へも強い関心を持っておられたこともあり、SDGsが採択され自身が社長に就任されたと同時に社を上げてSDGsへの取り組みをスタートさせたそうです。SDGsの17テーマのなかでも、健康と環境に重点的に取り組むと決め、「食と健康の課題解決への貢献によって10億人の健康寿命を延伸させる」ことを掲げました。また、気候変動（温室効果ガスの削減、水資源の使用量削減）、資源循環型社会構築（プラスチック廃棄物の削減、フードロスの削減）、サステナブル調達（森林破壊、生物多様性、人権、動物との共生に配慮した原料調達）について、具体的な目標を定めています。

また、こうした取り組みによって年間当たり80-100億円に上るリスク対策費用の削減につなげるとしています。こうしたお話を伺う中で、西井さまはSDGsについて、繰り返し「指標であり、目標、そして経営の根幹にあるもの」とお話しされていました。

また、SDGsが目的・目標であるならば、ESG（環境・社会・企業統治）は手段です。これまでは、E（環境）とG（企業統治）については見える化が進んできましたが、今回、コロナ禍において、企業のS（社会）への取り組みが注目されるようになりました。同社は、S（社会）への貢献として、“減塩”を重要なテーマとして取り組まれているそうです。減塩に貢献できる商品の比率を上げていくことで、社会に貢献する。それは、付加価値の高い商品であることから値段も高いため、同社の経済的なメリットにもつながります。このような取り組みを数値化して、「見える化」を進めているそうです。

また、働き方改革をいち早く進めた同社のガバナンスは、コロナ禍においても注目を集めており、経済産業省が発表している「健康経営銘柄（従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業）」にも4年連続で選出されています。このコロナ禍においても、健康経営を推進してきたことで、世界にある同社の工場では、罹患者をほとんど出すことなく工場の操業を止めずに済んだとのことでした。

そして、改めて「SDGsは指標であり目標である。本業を通じて達成に貢献していきたい、そして同時に我々も成長していきたい」とおっしゃいました。最後は「SDGs達成は未来への試金石です」という言葉で締めくくられました。

今回のSDGs投資セミナーは同社の「見えない価値」を実感させていただく貴重な機会となりました。

マーケティング部 福本 美帆





### 【長期投資ファンドはESG要素でも高評価】

皆さん、こんにちは

コモンズ投信 伊井です。

ESGという言葉を見聞きする機会は、この数年多くなっていることと思います。資産運用の世界でもESG投資が重要と言われるようになってきました。具体的には、単に決算などの財務情報を分析しての投資ではなく、

「E」=環境（Environment）では、地球温暖化につながる二酸化炭素の排出量を抑える努力をしているのか、事業が地球環境の破壊につながっていないか、再生可能エネルギーへの関心は高いかなどを確認、

「S」=社会（Social）では、労働環境の改善を行っているか、人権問題はないか、女性活躍を推進しているか、地域社会への貢献をしているのかなどを確認、

「G」=ガバナンス（Governance）では、経営の透明性、多様な価値観、企業不祥事が起こらない仕組みなどを確認することで、本当にいい会社を選ぶことが結果として投資のリターンにもつながる、との考え方です。

さて、当ファンドの約9割を占めるコモンズ30ファンドが、こうしたESGの評価が高い企業を多く組み入れているとのことで、ESGスコア1位になったという記事が日本経済新聞電子版に掲載されました。ドイツのESG評価会社のデータをもとにランキングされたものですが、さらに分析結果としてESGスコアの高いファンドは市場平均よりも運用成績がよい、という結果になっているとの内容でした。コモンズ30ファンドは、「30年目線で、30社程度への厳選投資を行い、企業との対話を大切にする」ファンドであり、ESGを標榜したファンドではありません。しかし、30年という超長期の時間軸で企業の実力を評価するときには、ESGの要素は当たり前のように分析項目に入ります。

また、静岡銀行も環境への取り組みでは「しずぎんECO口座」、「富士山定期預金」などを行い、人材育成では「健康経営優良法人2020」に認定されるなどの取り組みをされるなどESGにも積極的です。『コモンズ30+しずぎんファンド』は、まさに地域との共生をベースにしたESG要素がたっぷりに入ったファンドとも言えます。

どうぞ、引き続き当ファンドにご期待ください。

代表取締役社長 伊井 哲朗





## 販売会社一覧

販売会社名称	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第10号	○			



## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくご申し上げます。

なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

### 基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
為替変動およびカントリーリスク	外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。



## その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部戻りに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。



## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%（消費税込）が上限となっております。
換金手数料	ありません。
運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額に対して年0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有機関等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。



## お申込みメモ

その他	商品分類	追加型投信/内外/株式
	信託設定日	2014年12月29日
	信託期間	無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）
	決算日	原則として毎年12月18日（休業日のときは、翌営業日を決算日とします。）
	分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
	購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
	換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
	換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日
	申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。



## ご注意事項

- ・本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ・このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



## 関係法人

### 委託会社

コモンズ投信株式会社  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人投資信託協会

お問い合わせ先

- コールセンター（受付時間/平日 午前10時~午後4時）03-3221-8730
- ウェブサイト <https://www.common30.jp/>